

**土砂災害に関する避難訓練
シナリオ作成のための解説書
(地域版)**

石 川 県

令和3年3月

目 次

はじめに.....	1
1. 本解説書の使い方	1
2. 訓練の目的	1
1. 訓練の準備	2
1-1. 訓練フローチャート	2
1-2. 訓練の概要	3
2. 訓練シナリオの作成.....	8
2-1. 確認・準備事項	8
2-2. 訓練シナリオを作成しましょう	9
2-3. 役割別の事前準備のポイント	14
3. 訓練の実施.....	16
3-1. 実施にあたっての留意事項等	16
3-2. 記録を残しておきましょう	17
3-3. アンケートの実施	17
4. 訓練の振り返り	18
4-1. 避難訓練シナリオへの反映	18

はじめに

1. 本解説書の使い方

平成30年7月豪雨では、多くの自治体で土砂災害警戒情報や避難勧告等の避難を促す情報が発信されましたが、必ずしもそれが住民の避難に繋がっておらず、全国では逃げ遅れによる人的被害が多数発生しています。

住民は、「自らの命は自らが守る」意識を持つことが必要であるとともに、本県においても、地域の実情に応じた自助・共助による防災行動によって、避難の実効性をさらに高めていけるよう、地域への支援強化が求められています。

こうしたことから、本県では、初めて防災活動の指揮をとる地域のリーダーでも円滑な避難訓練が実施できるよう、地域版の避難訓練シナリオの雛形を作成しました。

本解説書は、避難訓練シナリオの雛形を活用して、地域に即した避難訓練が実施できるように、地域の災害特性や被害想定に合わせた訓練の手順やシナリオの作成方法を解説するものです。

2. 訓練の目的

近年、局地的な集中豪雨により、大規模な河川の氾濫や土砂災害が多発しています。

避難訓練は、これらの災害から身を守るため事前に訓練することで、災害が発生した時に住民が適切な行動をとり、被害を軽減することを目的としています。

災害の危険性や住民構成等は地域によって異なることから、それぞれの地域が、自らの地域の実情を捉えた効果的な避難訓練を実施することが重要です。

また、避難行動には、自助はもちろんのこと、近隣の人々が互いに助け合う共助が極めて重要です。そのため、避難行動要支援者や要配慮者利用施設の利用者が避難訓練に参加することにより、安全な避難を行うためには何が必要かを事前に確認することができます。

また、土砂災害から地区全体を守るための行動計画である「土砂災害に関するわがまち避難計画」（以下、「わがまち避難計画」）を作成している地域においては、訓練を通じて、「わがまち避難計画」の改善点が見つかれば随時見直し、より実践的で確かな避難が可能となるような防災体制を構築していきます。

1. 訓練の準備

1-1. 訓練フローチャート

1

訓練の準備

1. 訓練主催者・参加者等は誰にしますか
2. 訓練日時はいつにしますか
3. 災害の種類や規模、被害を想定してみましよう
4. 訓練内容を決めましよう
5. 避難訓練実施要領を作成しましよう
6. 地域住民への広報を行いましよう
7. 避難訓練に必要な資機材を調達しましよう



2

訓練シナリオの作成

1. 確認・準備事項
2. 訓練シナリオを作成しましよう

3

訓練の実施

1. 実施にあたっての留意事項等
2. 記録を残しておきましよう
3. アンケートの実施



避難訓練の実施状況



4

訓練の振り返り

1. 避難訓練シナリオへの反映

1. 訓練の準備

1-2. 訓練の概要

（１）訓練主催者・参加者等は誰にしますか

訓練主催者、共催者、参加機関を決定します。当日訓練に参加してもらいたい機関や団体、避難行動要支援者、要配慮者利用施設に対して、参加協力を依頼しましょう。

Point

- ・自主防災組織が訓練を主催する場合、市町の参加協力を依頼し、避難場所となる施設や防災行政無線による広報等、市町の施設等を利用させてもらいましょう。
- ・地域に居住する避難行動要支援者や、地域内にある要配慮者利用施設にもなるべく参加してもらうよう要請しましょう。

（２）訓練日時はいつにしますか

訓練日時を決定し、中止とする場合の条件等を検討しましょう。

Point

- ・訓練当日、気象警報が発令された場合等、事前に中止とする場合の条件等を決めておきましょう。（例：大雨・洪水警報が発令された場合は中止する。）

（３）災害の種類や規模、被害を想定してみよう

災害の種類を決定し、災害の被害や規模を検討しましょう。

Point

- ・地域の災害特性によって、発生する災害が異なるため、土砂災害に加え風水害も想定する等、必要に応じて決定しましょう。
- ・災害の種類や被害の規模により、訓練の中身が変わってきますので、ハザードマップ等で具体的な被害を想定しましょう。

1. 訓練の準備

（４）訓練内容を決めましょう

訓練内容（訓練種別）を決定しましょう。

本解説書で示す避難訓練シナリオ雛形は、「避難行動要支援者や要配慮者利用施設の方と共に避難場所まで逃げる避難訓練」、「避難行動要支援者と共に避難場所まで逃げる避難訓練」について掲載しています。

Point

- 訓練には、情報収集・伝達訓練、救出・救護訓練、避難所開設・運営訓練、防災資材の取扱訓練等、様々な種類があります。
- 参加人数や実施場所等の条件を考慮しながら、参加機関と協議しながら訓練内容を決めていきましょう。

1. 訓練の準備

（５）避難訓練実施要領を作成しましょう

訓練の概要が固まったら、要領としてまとめましょう。

（作成例）

●●地区 避難訓練実施要領

1 目的

台風の接近に伴う大雨による土砂災害の発生を想定し、「わがまち避難計画」および「個別計画（避難支援プラン）」に基づく、支援者による避難行動要支援者の避難支援、要配慮者利用施設利用者の避難支援、自主防災組織の災害対応確認等、実践的な避難訓練を実施することにより、避難計画を検証するとともに、避難の実効性を高めることを目的とする。

2 主催

●●自主防災組織、●●市、（共催 ●●社会福祉協議会）

3 実施日時 令和●●年●●月●●日（日） 9時00分～12時00分

4 実施場所

（1）本部会場 ●●市総務課 災害対策本部

（2）現地会場 メイン会場（指定避難所）●●コミュニティーセンター

5 参加機関 ●●自主防災組織、●●地域住民、●●消防団、 ●●要配慮者利用施設

6 訓練想定

台風の接近に伴う大雨による土砂災害の発生

※最接近の予定日の前日、予想よりも台風のスピードが上がり、予定日の深夜に最接近することが分かったため、前日の日中に住民の避難のため自主防災活動を行う。

7 訓練内容

避難行動要支援者や要配慮者利用施設の方と共に避難場所まで逃げる避難訓練

1. 訓練の準備

（6）地域住民への広報を行いましょ

避難訓練実施要領を作成したら、地域住民への広報を行いましょ。様々な方法を活用して、住民に積極的な参加を呼びかけましょ。

Point

- 積極的な広報活動を行い、できるだけ多くの住民に参加してもらいましょ。
- 広報の例：地域の回覧板、自治会の会合での避難訓練実施要領の配布、市町の広報誌への掲載、地域の防災行政無線等

1. 訓練の準備

（7）避難訓練に必要な資機材を調達しましょう

自主防災倉庫等に収納されている資機材を確認し、正常に使用できるか点検しましょう。

正常に使用できない資機材は修理し、不足する資機材は購入または借用します。資機材の修理や購入をする場合は、市町の補助金が活用できる場合がありますので、事前に市町に相談しましょう。

（用意する資機材の例）

用途	名称	数量	備考
情報収集	<input type="checkbox"/> テレビ		
	<input type="checkbox"/> ラジオ		
	<input type="checkbox"/> スマートフォン		
	<input type="checkbox"/> パソコン		
	<input type="checkbox"/> 各種バッテリー		
	<input type="checkbox"/> 筆記用具		
	<input type="checkbox"/> ホワイトボード		
避難誘導	<input type="checkbox"/> 名簿（自主防災組織）		
	<input type="checkbox"/> 名簿（避難行動要支援者）		
	<input type="checkbox"/> 名簿（要配慮者利用施設）		
	<input type="checkbox"/> スマートフォン		
	<input type="checkbox"/> 拡声器		
	<input type="checkbox"/> 一時避難のための食料・水		
	<input type="checkbox"/> 非常時持出品・備蓄品		
	<input type="checkbox"/> 防寒着		
	<input type="checkbox"/> 笛等		
	<input type="checkbox"/> 車イス		
	<input type="checkbox"/> 担架		
	<input type="checkbox"/> 搬送用車両		
	<input type="checkbox"/> 雨具		
	<input type="checkbox"/> ラジオ		
<input type="checkbox"/> 懐中電灯			
訓練時	<input type="checkbox"/> ストップウォッチ		
	<input type="checkbox"/> アンケート用紙		
	<input type="checkbox"/> 記録用紙		
	<input type="checkbox"/> カメラ、ビデオカメラ		
	<input type="checkbox"/> ビブス		

2. 訓練シナリオの作成

2-1. 確認・準備事項

訓練シナリオの作成にあたって、事前に以下の事項を把握しておきましょう。

（主な確認事項）

確認欄✓	確認事項
	避難場所
	避難経路・・・※1
	避難方法
	避難判断基準
	参加者の役割と行動
	避難行動要支援者および要配慮者利用施設の具体的な支援方法・・・※2

※1 避難経路を確認しましょう

自主防災組織・消防団・市町の防災担当者等、できるだけ多くの人々の目で、避難経路や避難場所の周辺を歩いてみましょう。水路や側溝等の危険箇所を把握するとともに、避難に要する時間を記録します。

※2 避難行動要支援者および要配慮者利用施設、支援者は打合せをしておきましょう

避難行動要支援者および要配慮者利用施設の支援者になっている方は、避難行動要支援者やその家族の方、要配慮者利用施設と事前に打合せを行いましょう。

なお、市町や民生委員は、避難行動要支援者の支援方法をまとめた「個別計画（避難支援プラン）」という台帳を持っていますので、できれば打合せ時に同行してもらおうとよいでしょう。（※市町により、台帳の整理状況や台帳の共有範囲は異なりますので事前に市町に確認してください。）

（打合せ内容の例）

・ 避難行動要支援者、施設利用者の健康状態
・ 避難行動要支援者、施設利用者の家族の了解
・ 避難行動要支援者、施設利用者の搬送方法（車いす、担架、搬送用車両等）
・ 避難場所までの安全な経路
・ 持ち出し物（服用している薬、老眼鏡、補聴器等）
・ 避難時の待機方法（畳、布団、椅子、テレビ、ビデオ等）

2. 訓練シナリオの作成

2-2. 訓練シナリオを作成しましょう

確認事項を把握したら、訓練シナリオを作成しましょう。各参加機関が訓練開始から終了までにどういった行動をとっていくのかについて、以降に示すSTEP 1～3の順に、時系列に整理します。

ここでは、本解説書で示す避難訓練シナリオの雛形を用いて作成の流れを解説します。

(訓練シナリオ作成例)

STEP 2 情報付与役（市町代役）、自主防災組織、住民、避難行動要支援者、要配慮者利用施設等の役割を記載します。

土砂災害想定訓練シナリオ（要配慮者利用施設あり）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	自主防災組織					住民	避難行動要支援者	要配慮者利用施設	
			情報付与役 (市町代役)	総務担当	情報担当	被災者管理担当 (民生委員)	施設管理担当				
8:45		自宅・施設待機									
9:00	①	<訓練開始> 大雨警報、洪水警報発表	防災行政無線で住民へ放送	各担当の招集	気象情報の収集	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設状況確認		避難準備	避難準備	避難準備	
9:15	②	本部会議開催		情報共有・今後の対応決定							
9:30	③	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 避難行動要支援者・要配慮者 者利用施設避難開始	防災行政無線で住民へ放送	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の避難支援指示 →被災者管理担当 高齢者等の避難開始指示 →情報担当	高齢者等の避難開始連絡 →住民	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の避難支援連絡 →支援者	避難所安全点検、避難所開設 補助 高齢者等受け入れ	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の避難支援(支援者)	支援者の誘導により避難開始	支援者の誘導により避難開始	
9:45	④	土石流の前兆現象発見	巡回バト、前兆現象箇所へ 巡回	消防団等より連絡を受け市町 に報告指示 →情報担当	前兆現象発見を報告 →市町						
10:00	⑤	屋内安全確保		屋内安全確保呼びかけ指示 →情報担当	屋内安全確保連絡 →住民			屋内安全確保			
10:15	⑥	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 一般住民避難開始	防災行政無線で住民へ放送	一般住民の避難開始指示 →情報担当	一般住民の避難開始連絡 →住民		避難者受け入れ		一般住民避難開始		
10:30	⑦	町内巡回・逃げ遅れ確認		町内巡回・逃げ遅れ確認を指 示 →情報担当	町内巡回・逃げ遅れ確認を連 絡 →消防団等						
10:45	⑧	土石流発生	巡回バト、災害発生箇所へ 巡回	消防団等より連絡を受け市町 に報告指示 →情報担当 住民へ注意伝達指示 →情報担当	土石流発生を報告 →市町 土石流発生による注意伝達 →住民						
11:00	⑨	指定避難所避難完了		市町へ避難状況報告指示 →情報担当	避難状況を報告 →市町	避難行動要支援者安否報告 →総務担当 避難者の体調・要望聞き取り →総務担当	避難者の体調・要望聞き取り →総務担当			要配慮者利用施設安否報告 →総務担当	
11:15	⑩	避難指示解除 町内巡回・被害状況確認	防災行政無線で住民へ放送	町内巡回・被害状況確認を指 示 →情報担当	町内巡回・被害状況確認を連 絡 →消防団等						
11:30	⑪	復旧途 避難行動要支援者・要配慮者 者利用施設支援		避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の帰宅支援指示 →被災者管理担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設状況確認 避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の帰宅支援連絡 →支援者		避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の帰宅支援(支 援者)	帰宅準備	帰宅準備		
11:45		訓練									
12:00		終了									

STEP 1 訓練時間、フェーズ（場面）、進行シナリオの流れを記載します。

STEP 3 参加者の行動を記載します。

2.訓練シナリオの作成

STEP 1 訓練時間、フェーズ（場面）、進行シナリオの流れの記載

事前に想定した災害の種類や規模、被害にそって、「進行シナリオの流れ」を記載します。訓練フェーズの多くは、気象台が発表する防災気象情報や市町が発令する避難情報に基づき実施されることから、進行シナリオの流れの欄に記載します。

「時間」の欄には、実際の訓練に要する時間を記載します。

「フェーズ」の欄には、訓練の段階ごとに番号を振ります。

（「進行シナリオの流れ」及び「フェーズ」は、地域の特性に応じて検討し、適宜追加してください。）

（STEP 1 作成例）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ				
8:45		自宅・施設待機				
9:00	①	<訓練開始> 大雨警報、洪水警報発表				
9:15	②	本部会議開催				
9:30	③	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 避難指示発令 避難指示				
	①	いつ				
9:45	④	土石流の前兆現象発見				
10:00	⑤	屋内安全確保				
10:15	⑥	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 一般住民避難開始				

2.訓練シナリオの作成

STEP 2 役割の記載

事前に想定した参加者の役割にそって、シナリオの役割の欄を記載します。

自主防災組織の欄は、必要に応じて、総務担当、情報担当、被災者管理担当というように細分化すると、それぞれの役割や行動がわかりやすく整理できます。

（役割は、地域で定める役割分担に応じて、適宜追加してください。）

（STEP 2 作成例）

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	情報付与役 (市町代役)	総務担当	② 誰が 被災者管理担当 (民生委員)	施設管理担当	
			8:45		自宅・施設待機		
9:00	①	<訓練開始> 大雨警報、洪水警報発表					
9:15	②	本部会議開催					
9:30	③	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 避難行動要支援者・要配慮者 利用施設避難開始					
9:45	④	土石流の前兆現象発見					
10:00	⑤	屋内安全確保					
10:15	⑥	土石災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 一般住民避難開始					

2. 訓練シナリオの作成

STEP 3 行動の記載

「進行シナリオの流れ」にそって、参加者の行動を記載します。
 訓練開始から避難開始、避難完了、帰宅支援までに必要な市町、自主防災組織、住民等の行動を記載します。避難に要する時間はまちあるき等で把握しましょう。

(STEP 3 作成例)

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	情報付与役 (市町代役)	自主防災組織				
				総務担当	情報担当	被災者管理担当 (民生委員)	施設管理担当	
8:45		自宅・施設待機		訓練開始まで待機				
9:00	①	<訓練開始> 大雨警報、洪水警報発表	防災行政無線で住民へ放送	各担当の招集	気象情報の収集	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設状況確認		避難準備
9:15	②	本部会議開催		情報共有・今後の対応決定				
9:30	③	高齢者等避難発令 (警戒レベル3) 避難行動要支援者・要配慮者 利用施設避難開始	防災行政無線で住民へ放送	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の避難支援指示 ⇒被災者管理担当 高齢者等の避難開始指示 ⇒情報担当	高齢者等の避難開始連絡 ⇒住民	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の避難支援連絡 ⇒支援者	避難所安全点検、避難所開設 補助 高齢者等受け入れ	避難行動要 者利用施設 支援者) 高齢者等避
9:45	④	土石流の前兆現象発見	巡回バト、前兆現象箇所へ 急行	消防団等より連絡を要 に報告指示 ⇒情報担当	⇒市町			
10:00	⑤	屋内安全確保		屋内安全確保呼びかけ指示 ⇒情報担当	屋内安全確保連絡 ⇒住民			屋内安全確
10:15	⑥	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警戒レベル4) 一般住民避難開始	防災行政無線で住民へ放送	一般住民の避難開始指示 ⇒情報担当	一般住民の避難開始連絡 ⇒住民		避難者受け入れ	一般住民避

③ 何をするか

2. 訓練シナリオの作成

STEP 4 シナリオ最終案の作成

無理な行動の見直し、代替手段の検討を行い、最終案を作成します。

(STEP 4 作成例)

時間	フェーズ	進行シナリオの流れ	情報付与役 (市町代役)	自主防災組織			施設管理担当	住民	避難行動要支援者	要配慮者利用施設
				総務担当	情報担当	施設管理担当 (民生委員)				
8:45		自宅・施設待機								
9:00	①	<訓練開始> 大雨警報、洪水警報発表	防災行政無線で住民へ放送	各担当の居集	気象情報の収集	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設状況確認	訓練開始まで待機	避難準備	避難準備	避難準備
9:15	②	本部会議開催		情報共有、今後の対応決定						
9:30	③	高齢者等避難発令 (警報レベル3) 避難行動要支援者・要配慮者 者利用施設避難開始	防災行政無線で住民へ放送	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当 高齢者等の避難開始指示 →情報担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →支援者	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当	避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当
9:45	④	土石流の前兆現象発見	巡回入ト、前兆現象箇所へ 急行	巡回入ト、前兆現象箇所へ 報告指示 →情報担当 屋内安全確保呼びかけ指示 →情報担当	前兆現象発見を報告 →作即 →住民 屋内安全確保連絡 →住民					
10:00	⑤	屋内安全確保								
10:15	⑥	土砂災害警戒情報発表 避難指示発令 (警報レベル4) 一般住民避難開始	防災行政無線で住民へ放送	一般住民の避難開始指示 →情報担当	一般住民の避難開始連絡 →住民					
10:30	⑦	町内巡回・逃げ遅れ確認		町内巡回・逃げ遅れ確認を指示 →情報担当	町内巡回・逃げ遅れ確認を連絡 →情報担当					
10:45	⑧	土石流発生	巡回入ト、災害発生箇所へ 急行	巡回入ト、災害発生箇所へ 報告指示 →情報担当 住民へ注意伝達指示 →情報担当	土石流発生を報告 →作即 土石流発生による注意伝達 →住民					
11:00	⑨	指定避難所避難完了		町町へ避難状況報告指示 →情報担当	避難状況を報告 →作即	避難行動要支援者安否報告 →被災者管理担当 避難者の体調・要望聞き取り →被災者管理担当	避難者の体調・要望聞き取り →被災者管理担当		要配慮者利用施設安否報告 →被災者管理担当	
11:15	⑩	避難指示解除 町内巡回・被災状況確認	防災行政無線で住民へ放送	町内巡回・被災状況確認を指示 →情報担当	町内巡回・被災状況確認を連絡 →情報担当					
11:30	⑪	帰宅行動開始 避難行動要支援者・要配慮者 者利用施設帰宅支援		避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の帰宅支援指示 →被災者管理担当		避難行動要支援者・要配慮者 利用施設の利用状況確認 →被災者管理担当				帰宅準備
11:45		訓練場り返り								
12:00		終了								

2. 訓練シナリオの作成

2-3. 役割別の事前準備のポイント

作成したシナリオの役割別の事前準備のポイント（例）を解説します。

情報付与役（市町代役）

- 市町へ事前に避難訓練の協力を依頼し、可能な場合は、防災行政無線を活用させてもらいましょう。
- 市町が参加しない場合は、市町の役割を担当する人およびスピーカーを使用する等の伝達方法を事前に話し合い、決めておきましょう。

自主防災組織（全体）

- 避難誘導、声かけは、災害時に自主防災組織に最も期待される活動の一つです。行政からの避難情報だけでなく、身近な人から声かけすることで、住民の避難をより一層促進することができます。
- 事前に声かけの体制づくり（声かけのタイミング、範囲、順番、方法、内容の検討）を行っておきましょう。

総務担当

- 本部会議の会議場所をあらかじめ決めておきましょう。
- 本部会議の議題をあらかじめ決めておくと会議がスムーズに進みます。
（例）住民避難の時期、体制の確認、市町への避難場所開設の要請時期
- 市町への状況報告は、地域に的確な支援を行ううえで重要な情報になります。前兆現象の状況（日時・規模等）、避難者数や負傷者の状況等迅速にとりまとめ、情報担当と連携し、正確に報告できる体制を整備しておきましょう。
- 地元消防団とうまく連携するためにも、常に連絡を取りあえる関係を構築しておきましょう。

情報担当

- テレビ、ラジオ、スマートフォン、パソコン等、情報収集するための媒体を複数用意しておきましょう。また、予備のバッテリーも確認しておきましょう。
- 総務担当からの指示を速やかに伝達するため、事前に消防団等、市町の担当部局等の連絡先および連絡手段を確認しましょう。
- 住民へ連絡するための連絡網（地区に応じた連絡手段）を整備しておきましょう。なお、連絡網は、個人情報の保護に留意することが必要です。

2. 訓練シナリオの作成

被災者管理担当（民生委員）

- 避難行動要支援者の状況を確認するため、要支援者名簿を準備しておきましょう。
- 避難行動要支援者・要配慮者利用施設の避難支援を指示するため、事前に支援者の連絡先および連絡手段を確認しましょう。

施設管理担当

- 自主防災組織が率先して避難所を運営することで、迅速な避難者の受け入れができ、地域の安全確保につながります。
- 具体的な受け入れ方法については、各市町が作成している避難所運営マニュアル等に基づき実施します。

住民（支援者）

- 避難支援に必要な資機材をあらかじめ用意しておきましょう。

住民（高齢者等）

- 避難に必要な持ち出し品をあらかじめ用意しておきましょう。

避難行動要支援者

- 「個別計画（避難支援プラン）」等により、地域への支援要請を事前に検討しておきましょう。
- 避難に必要な持ち出し品をあらかじめ用意しておきましょう。

要配慮者利用施設

- 「避難確保計画」等により、避難・帰宅に必要な職員数を把握し、地域への支援要請を事前に検討しておきましょう。
- 避難に必要な持ち出し品をあらかじめ用意しておきましょう。

3. 訓練の実施

3-1. 実施にあたっての留意事項等

ここでは、実施にあたっての留意事項等のポイントを解説します。

Point

- 事故等への配慮

訓練の実施にあたっては、事故や怪我に気をつけましょう。特に、新型コロナウイルスへの対策、冬期においてはインフルエンザの蔓延、夏期においては熱中症等の危険性が高いので注意を要します。

また、避難訓練が屋外等となる場合は道路や周囲の安全確認を行う等安全確保が大切です。万一の事故に備え、イベント保険等も活用しましょう。

- 訓練の実施・工夫

初めて訓練を実施する場合は、少ない人数で始めてみるのも一つの方法です。その後、参加人数を増員したり、情報伝達訓練等も取り入れたりして訓練内容を充実させていきます。すでに避難訓練を定期的に行っている場合は、地震時に塀が倒れて避難路が使用できなくなることや、停電等のアクシデントを発生させたり、夜間を想定したりする等、様々なケースに対応できるように訓練を工夫しましょう。

避難訓練の実施が困難な場合は、県、市町等の関係機関に相談しましょう。

- 訓練の進行

避難訓練を予定した時間に沿ってやってみましょう。予定通り進まない場合でも、慌てず、反省材料として次の訓練で活かすようにしましょう。

3. 訓練の実施

3-2. 記録を残しておきましょう

訓練の振り返りを行うために、避難訓練の状況をカメラ、ビデオで撮影し、避難訓練の記録を残しておきましょう。

Point

- 訓練に参加される住民の中から、数名の記録者を定めておき、訓練の状況をカメラ、ビデオで撮影してもらいましょう。
- 参加者の役割毎の行動内容、所要時間、良い点、改善点、その他気づいた点等を何でも率直に記録してもらいましょう。
- 訓練後に記録を確認して、訓練の振り返りを実施します。
- 訓練時には、訓練状況の記録で役割が明確になるよう、ビブス（役割等を表示）の着用を推奨します。

3-3. アンケートの実施

訓練終了後、参加者にアンケートを実施し、参加者の情報（年齢、性別、居住地区等）や訓練の内容（時間、行動、意識、課題等）についての率直な感想や意見を聞き取りましょう。

（アンケートの内容の例）

①災害時の行動内容を理解し適切に行動できたかの確認
②災害時の行動内容についての課題（疑問・不明点）および良好な点
③「わがまち避難計画」についての改善点（作成済み地域のみ）
④設備・施設についての改善点
⑤訓練準備についての課題

4. 訓練の振り返り

4-1. 避難訓練シナリオへの反映

アンケート結果および訓練の記録をもとに、訓練の参加機関で課題・改善点を洗い出しましょう。課題・改善点を洗い出し、必要に応じて、避難訓練シナリオを見直します。

また、「わがまち避難計画」を作成している地域では、必要に応じて、「わがまち避難計画」の見直しも行います。

Point

- 課題・改善点の洗い出しで出された意見をもとに、避難訓練シナリオや「わがまち避難計画」を見直し、より実践的で的確な避難が可能となるような防災体制を構築します。

